



第166回 芥川賞・直木賞 決定！

1月19日、東京・築地「新喜楽」において、選考会が開かれた。両賞は1935年に制定。芥川賞は新聞・雑誌に発表された純文学短編作品、無名・新進作家が対象。直木賞は新聞・雑誌・単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品の中から、無名・新進・中堅作家が対象となり、優れた作品に贈られる。芥川には、砂川文次さん（31）の「ブラックボックス」（群像8月号）に決まった。直木賞は今村翔吾さん（37）の「塞王の楯」（集英社）と米澤穂信さん（43）の「黒牢城」（KADOKAWA）に決まった。

砂川文次さんは大阪府出身の31歳。

元陸上自衛隊、現都内区役所勤務の地方公務員。2014年秋頃、陸上自衛隊操縦学生であった時に書き上げた投稿作「市街戦」で、2016年の第121回文学界新人賞を受賞しデビュー。

芥川賞は2019年に発表した

「戦場のレビヤタン」、去年の「小隊」に続いて3回目の候補での受賞。

今村翔吾さんは京都府出身の37歳。

ダンスのインストラクターや滋賀県守山市の埋蔵文化財センターの調査員などを経て、2017年に「火喰鳥 羽州ぼろ鳶組」でデビューしました。直木賞は2018年に発表した「童の神」、一昨年「じんかん」に続いて、3回目の候補での受賞。

米澤穂信さんは岐阜県出身の43歳。

大学生のころからウェブ上に自分の作品を発表し、2001年には「氷菓」が角川学園小説大賞の奨励賞を受賞しデビュー。直木賞は2014年に発表した「満願」、翌年の「真実の10メートル手前」に続いて三度目の正直で今回の受賞となりました。



米澤穂信・今村翔吾・砂川文次

第166回芥川賞・直木賞 受賞作品の紹介！

第166回芥川賞受賞「ブラックボックス」 砂川文次著

ずっと遠くに行きたかった。

今も行きたいと思っている。

自分の中の怒りの暴発を、なぜ止められないのだろう。

自衛隊を辞め、いまは自転車便メッセンジャーの仕事に就いているサクマは、都内を今日もひた走る。

昼間走る街並みやそこかしこにあるであろう倉庫やオフィス、夜の生活の営み、どれもこれもが明け透けに見えているようで見えない。張りぼての向こう側に広がっているかもしれない実相に触れることはできない。気鋭の実力派作家、新境地の傑作。

第166回直木賞受賞 「塞翁の楯」 今村翔吾著

幼い頃、落城によって家族を喪った石工の匡介（きょうすけ）。

彼は「絶対に破られない石垣」を作れば、世から戦を無くせると考えていた。一方、戦で父を喪った鉄砲職人の彦九郎（げんくろう）は「どんな城も落とす砲」で人を殺し、その恐怖を天下に知らしめれば、戦をする者はいなくなると考えていた。秀吉が病死し、戦乱の気配が近づく中、

匡介は京極高次が琵琶湖畔にある大津城の石垣の改修を任される。

攻め手の石田三成は、彦九郎に鉄砲作りを依頼した。

大軍に囲まれ絶体絶命の大津城を舞台に、信念をかけた職人の対決が幕を開ける。

第166回直木賞受賞 「黒牢城」 米澤穂信著

史上初、4大ミステリランキング完全制覇！

本能寺の変より四年前、天正六年の冬。織田信長に叛旗を翻して有岡城に立て籠った荒木村重は、城内で起きる難事件に翻弄される。動揺する人心を落ち着かせるため、村重は、土牢の囚人にして織田方の智将・黒田官兵衛に謎を解くよう求めた。事件の裏には何が潜むのか。

戦と推理の果てに村重は、官兵衛は何を企む。デビュー20周年の集大成。『満願』『王とサーカス』の著者が辿り着いた、ミステリの精髓と歴史小説の王道。

※ぜひ、図書館へ



芥川賞 受賞作品を読んでみよう！

「異類婚姻譚」 本谷有希子著 第154回受賞

自由奔放な想像力で日常を異化する傑作短編集。

「コンビニ人間」 村田沙耶香著 第155回受賞

正常と異常の境目がゆらぐ衝撃のリアリズム小説。

「しんせかい」 山下澄人著 第156回受賞

文学界の異端者が描く、自らの原点！

「影裏」 沼田真佑著 第157回受賞

樹々と川の彩りの中に、崩壊の予兆と人知れぬ思いを
繊細に描き出す。

「おらおらでひとりいぐも」 若竹千佐子著
第158回受賞

新たな「老い」を生きるための感動作

「百年泥」 石井遊佳著 第158回受賞

大阪生まれインド発、けったいな荒唐無稽。
魔術的でリアルな新しいものがたり。

直木賞 受賞作品を読んでみよう！

「容疑者Xの献身」 東野圭吾著 第134回受賞

数学だけが生きがだった男の純愛ミステリ！

「風に舞いあがるビニールシート」 森絵都著
第135回受賞

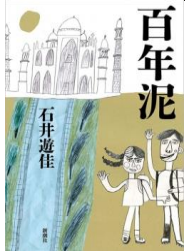
愛しぬくことも愛されぬくこともできなかった日々を、
今日も思っている。

「切羽（きりは）へ」 井上荒野著 第139回受賞

どうしようもなく別の男に惹かれていく、夫を深く愛
しながらも。繊細で官能的な大人の恋愛小説。

「利休にたずねよ」 山本兼一著 第140回受賞

最後まで己の美学を貫き、天下人・秀吉に切腹を命ぜられた千利休。
利休に艶やかな感性を与えた、秘めた恋と人生の謎にせまる。



「悼む人」 天童荒太著 第140回受賞

善と悪、生と死が交錯する感動巨編！

「小さいうち」 中島京子著 第143回受賞

今はない家と人々の、忘れがたい日々の物語。

「下町ロケット」 池井戸潤著 第145回受賞

「お前には夢があるのか？ オレにはある」

男たちの矜持が激突する感動エンターテインメント長編

「鍵のない夢を見る」 辻村深月著

第147回受賞

彼女たちの疲れた心を待つ落とし穴。

私たちの心の奥底を静かに覗く傑作集。

「何者」 朝井リョウ著 第148回受賞

就活対策として集まるようになった、5人。

だが、SNSや面接で発する言葉の奥に見え隠れする、
本音や自意識が、彼らの関係を次第に変えていく。

「ホテルローヤル」 桜木紫乃著

第149回受賞

ホテルだけが知っている、やわらかな孤独湿原を背に
建つ北国のラブホテル。訪れる客、経営者の家族、
従業員はそれぞれに問題を抱えていた。

「流」 東山彰良著 第153回受賞

歴史に刻まれた、一家の流浪と決断の軌跡

「つまをめとらば」 青山文平著 第154回受賞

男の心に巣食う弱さを包み込む、滋味あふれる物語。

「海に見える理髪店」 荻原浩著 第155回受賞

誰の人生にも必ず訪れる、喪失とその先に灯る小さな光が
胸に染みる、大人のための泣ける短編集。

「蜜蜂と遠雷」 恩田陸著 第156回受賞

ピアノコンクールを舞台に、人間の才能と運命、
そして音楽を描き切った青春群像小説。

※ぜひ、図書館へ

